西東京市市民協働推進センター

平成 27 年度第 4 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 27 年 7 月 21 日(火)午後 7 時 00 分～9 時 00 分
■開催場所：イングビル 3 階第 3、4 会議室
■出席委員：池田委員、伊藤委員、小松委員、紺野委員、坂口委員、佐藤(文)委員、佐藤(留)委員、鈴木委員、田中(友)委員、田中(紀)委員、谷委員、富沢委員、中村委員、藤江委員＜以上 14 名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、丸木福祉活動推進課長、石井地域福祉推進係長、塚澤主事

1. 報　告　事　項

1. 業務報告について

事務局より、6 月期の主催事業、その他事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

2. 7 月以降の事業について

事務局より、7 月の実施事業などについて説明があった。

委員長：協働のまちづくりワークショップに参加された方の感想をお願いします。

委　員：わいわいネットを題材に話合いが進められたが、行政の方の発言は前向きに話そうとする努力はみられたが、なかなか行政の壁が越えられず時間が足りない感があった。

委　員：わいわいネットが素晴らしかったため今後どうしたら良いかという話で盛り上がった。そのため今回のテーマである協働推進までにはいかなかった。ただ、行政からは繋ぐような仕事をしたいと意見があったのは良かった。

委員長：わいわいネットの事例に対して、どうやったらいろいろな方が関わりながら発展拡大できるかのワークだったが、みんなでやろうというよりはアイデアで話が盛り上がってしまったのは否めない。事例的にはこれからなので、課題もこれから出て来ると思うが良いタイミングでの事例とワークであったと思う。アンケートからは市民と話す場を地道に作っていくことが大切なのではないかと感じた。

事務局：今回の特徴は行政から初めて課長が 2 名参加したこと。行政側参加者を係長以上でお願いしたのは、もう少し協働の具体化に向けて踏み込んだものにしたいという協働コミュニティ課の考えもあった。

委員長：去年までの行政職員との懇談会と協働を考えるシンポジウムの 2 本立てを今年度は一つにしたので、昨年度までのやり方と今年度のやり方を精査し来年度に向けて事務局で考えて欲しい。

委　員：去年の単なるシンポジウム、単なる懇談会よりは今回の方が良いが、もう少し協働というところに焦点を当てられたらよかった。

委員長：アンケートには、多者協働といっても曖昧模糊として説明だけではわからない、わいわいネットについては公民館の宣伝に思えた、というようなことも指摘されていた。

委　員：多者協働をテーマにした理由は何か。

委員長：たぶん私が言い出したと思う。まちづくり円卓会議などで2者ではなく多者でやることによる効果があがってきている。全国的に市町村社協のボランティアセンターを多者協働の場にしていこうという流れの中で、西東京市でも行政職員の方々にこれからは行政と市民との2者による協働の基本原則だけでは難しいということをわかって欲しかった意図が一番にある。来年度はターゲットを広げて広報しても良いかもしれない。

委　員：多者協働に対し、アンケート以外のリアクションはあったのか。

事務局：特にはない。

委　員：テーマは良いと思った。ただ、行政職員の立場で協働という言葉を聞いたとき、何かやらなくてはならないというお題目的なとらえ方をしている方が多いと思うので、委員長が言っている意図が行政にうまく伝わると良いと感じた。

委　員：対話をすることにより、思いもかけないアイデアが出たりすることがある。対話をすることの良さをわかってもらうのが良いと思う。

委員長：課題解決のための協働だということを力説したかった。事例として挙げたのは、買い物弱者の支援を行政側は連絡調整をやり、実際動くのは企業や市民団体や学生であったりするケース。必ずしも全てを行政がやることはなく協働をする考えもある。

委　員：わいわいネットの事例を聞いて、本当に必要な子どもたちに必要な情報が届いているのだろうか。それを繋げるのが行政の役割なのではないかという意見が出てきた。ある程度経験を積んだ職員から出てきた意見だと思った。

委　員：7月29日に会議を開催する地域協議体の動きが知りたい。

事務局：この会議自体は順調に進んでいる。現状では地域協議体を設立したら、とりあえず情報交換からスタートしようと設立に向けて準備会が始まったばかりである。

委員長：今後も報告はしてもらいたい。東伏見コミュニティセンターのにこにこまつりの出前相談を登録団体にも広報してほしい。

2. 審　議　事　項

1. 会議録について

委員長：今週末までに意見がなければ確定稿とする。

3. 協　議　事　項

委員長提案で、議題の協議の順番を入れ替えた。

1. NPO・市民フェスティバルについて

事務局より第7回NPO・市民フェスティバルの企画案について説明があった。

委員長：NPO・市民フェスティバル実行委員会メンバーの運営委員の方から何かあるか。

委　員：前回の実行委員会ではかなり活発な発言があった。アスタセンターコートで開催する意図として、この事業の成果も変わってくると思う。全くNPO・市民活動を知らない人の足を止めるということで、各団体の個別の紹介よりは西東京にはこういう市民活動がありますというＰＲの方が成果として求められるのではないか。NPO・市民フェスティバルという名前を変更し

てはどうかという意見があがった。NPO でない任意団体の自分たちも関わってみようというタイトルにしてもらいたい、NPO をとった方が入りやすいのではないかとの意見があった。

委　員：名前の議論についての反応はどうだったか。

委　員：結論までまとまらなかったが、変えてはどうかという意見の方が多少多かった。

委　員：NPO をとって市民活動フェスティバルではどうか。NPO がつくとハードルが高いように感じていた。金曜と土曜を 5 時頃までやってはどうか。3 時 30 分終了では勿体ない。

委　員：アスタセンターコートで開催する意図は、一人でも多くの方に見てもらうことと理解して良いのか。

事務局：NPO・市民フェスティバルの元々の目的は 2 つあった。市民団体同士の交流と市民向けに広報するという意味があったが、団体同士の交流はできてきたので一般市民を対象にした。

委　員：市民活動に全然興味がない人にとりあえず見てもらうことなら、有名人を呼ぶなり、ものをあげるなり方向性を最初に決めてはどうか。

委員長：この場所は物品の販売、飲食の提供は可能なのか。選択肢の一つとして調べて貰いたい。募金活動はできるのか。ステージパフォーマンスで多摩六都科学館からは何か提供できるか。

委　員：多摩六都科学館として何かできると思う。

委　員：団体同士の交流はできてきたので、フェーズを変え一般市民を対象にしていくことを考えてアスタセンターコートに場所を変えることとした。NPO・市民フェスティバルの趣旨としては紹介する場なので、会場の中では募金活動は原則禁止としている。

委　員：開催日ごとにテーマを決めるのか。

事務局：まだ、決まっていない。最終日はお父さんお帰りなさいパーティー（以下、おとぱ）をする予定。

委員長：一般の方に見てもらうには現在の広報だけでは難しいのではないか。ＳＮＳ等、他にアイデアはないか。

委　員：アスタの店舗にチラシを貼ってもらえる。タイミングが良ければ、アスタが発行する新聞に掲載してもらえる。アスタの担当者と調整するとよい。

委　員：誰かを呼ぶのにお金を使うのではなく、来た人に対してお金を使うほうが有効ではないか。

委　員：参加型の企画があるとよいのではないか。

委　員：展示だけでは人が集まらないが、ものを作るような体験コーナーがあると人が集まるのではないか。

委員長：メッセージボードを作っておき、メッセージを付箋に書いて貼ってもらうのも参加しやすいのではないか。

委　員：クイズに答えた方にグッズを差し上げるなどの参加型とか、西東京のゆるキャラを呼ぶこともできるのではないか。

委員長：出前相談をやってほしい。テーマが協働になるのなら企業や行政にも声をかけてはどうか。

委　員：市民活動がテーマなので、どんなまちになったらいいかなどだれでも答えやすいもので意見を貼ってもらえば、まちづくりの方向性も見えてくるし、アイデアをもらうこともできる。

委　員：実行委員会で共有してください。

2. 西東京・地域デビュー・シリーズ

事務局より西東京・地域デビュー・シリーズの企画案について説明があった。

委　員：応募できる人の条件はあるのか。既に地域活動している方も構わないのか。
事務局：想定はこれから地域にデビューを考えている方だが、参加条件として限定はしていない。
事務局：アンケートで「まち歩き」をしたいという意見が多かったので、シリーズ第4弾で取り入れる予定である。何かアイデアはないか、また入れたほうがよい要素があれば意見がほしい。
委　員：女性の方におとぱという表現は不自然ではないか。定年を迎えてどう活動したら良いのかという人を対象にやるべきではないか。同じ人がずっと続けて参加してもらうより、いろいろな人を入れたらどうか。
事務局：シリーズの企画にたまたま同じ人が参加してくれているが、年に一回のおとぱへの参加だけを目指すのではなく、シリーズのいろいろな企画に参加した結果、最終的におとぱまでつなげていければと考えている。
委　員：ゆめこらぼがすべて担うのは大変なので、それぞれの団体にそれぞれに応じて振り分けをしてはどうか。
事務局：考えているがまだ、企画がきちっと固まっていないので、今後相談していきたい。
委員長：単発でもかまわないが、地域で社会貢献活動に繋げていく事が必要ではないか。ふれまちとかボラセンの紹介も意識して増やしていけば良いのではないか。
委　員：野菜収穫体験をどうやって地域活動につなげていき、どこの団体が関わっているのか。
事務局：農家は決まっているが、活動につなげる団体はまだ決まっていないので今後も進行を報告していく。

3. 広報戦略について

事務局より、リーフレットリニューアルについて説明があった。

委員長：リーフレットに何を盛り込めばよいか。キャッチコピーは、リーフレットだけのことではなく、センター運営全体に関わってくることなので、どのようなことを盛り込んだらよいか、アイデアを出してほしい。
委　員：団体と個人とを分けていないので、対象者をはっきり分けて記載する必要がある。団体と個人の双方に呼びかけているのがわかるように記述してほしい。理念などはどこかに書いてあればよいのではないか。
委員長：中間支援組織なので団体支援と個人支援では活動内容が違う。対象を分けて明記する。
委　員：今現在、配布している場所、何部ほどはけているのか等のデータはあるのか。
事務局：6年前に1万部作成し、3000部くらい残っている。今は、センターに置いてあり他の施設には置いていない。主にイベント時に参加者に配布している。
委　員：イベントで配るということは、意図して持っていくのではなく、資料にセットして配られるので意図しない人にも配られていると解釈して良いか。
委　員：リニューアルしたら何部刷るのか。
事務局：決めていない。
委　員：大きさは現在のイメージで良いのか。
事務局：今のところ現行で考えているが、アイデアがあれば出してほしい。
委　員：設置してある場所はセンターだけか。
委員長：この内容でセンターに置くのならA4で充分である。設置場所のイメージも必要ではないか。
委　員：機材の貸し出し無料が先に目につくので、団体についての紹介などが必要なのではないか。

委　員：いいまちにするのはあなたたちですよということをアピールしてほしい。それにはいろいろな団体活動があり、団体も個人も応援しているなど、啓発活動と中間支援組織としてやっていることを出すと良いのではないか。

委員長：配布のイメージを固め、リーフレットの中に何を盛り込むか、キャッチコピーに盛り込むキーワードを考えていきたい。活動する人を応援する旨は伝えていきたい。

委　員：設置場所を増やすことを考えているのか。

委員長：用途により設置場所も変わってくるし、リーフレットの形態も変わるので配布のイメージも固めていきたいので、配布のイメージと用途を事務局に聞きたい。

事務局：中間支援組織としてゆめこらぼから目的を決めることはできない。市民なり団体なりから方向性が具体的になれば手助けできるが、ゆめこらぼの判断で方向性を決めることはできない。チラシの配布の目的を決めるのは事務局ではなく、運営委員会がその機関としてあると考えている。

事務局：ゆめこらぼ自体が市民に知られていないことをどうしたら知ってもらえるかが課題となっている。リーフレットの使い方の第一の目的はゆめこらぼをまずは知ってもらうことで、知ってもらうことをきっかけにしながら、市民活動に引っ張り込むためのツールの一つとして使用されるのが良いと考えている。

委員長：広報の重点課題はゆめこらぼの認知率を上げることと、対象となる人に対しリーチがうまくかけられるのかが大前提と考えることで良いのか。

委　員：ゆめこらぼを知っている人が手に取るものではないので、センターに置くものではない。

委員長：現行のものはセンターに置くという目的で作られていたので、今回作成するリーフレットという存在は、認知度を上げる目的を持って作成していくこととする。認知度を上げるという用途で考えていくこととし、9 月の委員会で議論をすることとする。次回皆さんの団体のリーフレットを持参してもらいたい。

委　員：他のセンターのリーフレットも参考資料として集めてほしい。デザインで良いものがあれば資料に加えてもらいたい。

委　員：置いてあって目についた人に持って行ってもらうにはインパクトが弱いので、置く場所を広げることを考えることも必要である。

委　員：西東京市への転入者への配布資料に入れてもらうことも考える必要がある。多摩六都科学館のリーフレットも昨年から入れてもらっている。

委　員：リーフレットとホームページとゆめこらぼ通信はリンクするものではないか。

委員長：エッセンスはリーフレットであると考える。まず、リーフレットを固めてからにしたい。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：9 月 15 日（火）19 時～21 時

会場：下宿地区会館